

1.長期成長ビジョン

未活用資源の有効活用やペットフード事業の拡大等により高い売上成長率と高収益を実現する。その利益を賃金アップと追加投資の資金に活用することで、持続的な成長を目指す。地域経済への貢献や環境保全を促進し、「食」を通じて社会に貢献する。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

■目指す姿（ToBe）

食を通じて、「人・動物・地球環境」に対して責任を果たし続ける

- ・持続的成長の実現
- ・新規雇用と持続的賃金アップにより地域経済に貢献
- ・原材料の安定的仕入による地元の農業・漁業者の収益に寄与
- ・関連する事業者（サプライチェーン）全ての収益向上への貢献
- ・未利用資源の活用による環境保全や食料不足への対応
- ・製造プロセスにおける環境負担軽減による環境保全に貢献

■ビジネスモデル（ToDo）

- 1.ニーズ・メガトレンドに合致した製品の開発 ⇒ 売上・利益アップ
 - ①ペット事業の拡大
 - ②高品質と健康志向の強化
- 2.未利用資源の有効活用 ⇒ コスト削減、環境保全、経済波及
- 3.ヒトとモノに対する有効な投資 ⇒ 成長の好循環を創出
 - 収益の従業員への大幅な還元
 - ①有効な設備投資と製造プロセスの改善
 - ②賃金アップと情報共有化
 - ③収益の従業員への大幅な還元と追加投資

会社全体の売上成長目標（2034年）

- ・売上高成長率150%
- ・売上高増加額145億円

会社全体の賃上げ目標

- ・1.37%（直近事業年度～基準年度）
- ・3.71%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機（社会課題・顧客ニーズの変化とメガトレンド）

■ペットフードの増産依頼

- ・既存取引業者（大手ナチュラル系店舗、大手通信販売業者など）から栄養価・安全性を評価していただき増産依頼
- ・ペットフード世界シェアを持つM社が、当社のフレッシュフードを知り、「生肉を使用したレトルトの冷凍商品」の共同開発を要請

■食の安全性・高品質化の要請

- ・食の安全性や高品質化の要請は人間だけではなくペットにも広がっている。ペットフード市場が拡大する中で、ペットフードにも「ヒューマングレード」の安全性や品質の要求が高まっている。

■社会的価値の創出（企業の使命・社会的役割の要請）

- ・地域のリーディングカンパニーとして環境問題や地域経済の波及など、企業の使命や社会的役割を果たす必要がある。また、人間とペットの食の企業として、食糧不足への対応が必要である。

内発的動機（経営者の原体験と動機・ビジョン）

■企業の理念・健康へのこだわり

- ・35年前に「雑穀米」という造語を作り、一粒の雑穀から創業
- ・当時、雑穀は「ゴミだ」と言われた中、自身の体調回復体験から、「皆様の健康に貢献したい！」との強い信念で様々な食品を開発・製造（例）雑穀米、雑穀米発酵調味液、雑穀米発酵甘酒・焼酎、調味料等
- ・阿蘇郡小国町で耕作放棄地を17ヘクタール再生、自社農園で有機栽培を実施
- ・全国1,500軒以上の契約農家と協力関係を構築

■ペットフード事業

- ・1999年10月からペットフードの製造を開始
- ・愛犬の皮膚炎改善体験をもとに雑穀米を使用した製品を開発
- ・九州産の生肉を使用し、人間と同じ基準の品質の原材料を使用

2.補助事業の概要

当社のペットフードは高品質と特殊技術が評価され、大手メーカーから増産の要請を受けているが、キャパシティ不足で対応できない状況にある。本事業では、工場及び製造ラインの増設と効率化を進め、生産力と労働生産性の向上を図るとともに当社の強みである技術と高品質を活かしてペットフード事業の拡大を実現する。

補助事業の背景・目的

当社のペットフードは、高品質であり評判が良く、特殊な製造技術で他社が真似できないことから、大手メーカーから増産要請を受けているが、キャパシティ不足により断っている状況にある。本事業では、**工場や製造ラインの増設、自動化**を進めることで、**生産力を大幅にアップ**させるとともに**労働生産性の向上**を図る。今後、品質・安全性への意識が高まる中で、当社のペットフードはさらなる優位性を確立できると考えている。本事業により**ペットフード事業を大幅に拡大**し、当社の**基幹事業へと発展**させる方針である。

事業費(補助額)

51億円
(17億円)

設備投資の内容

【設備投資の内容】

設備投資の内容		建物費	機械装置費
第2工場・ライン増設改修	ドライフード	160	882
第3工場・新築	ドライフード(キャットフード専用)	1,000	882
第4工場・新築	フレッシュフード・レトルト等	800	400
物流センター・新築	第1～第3工場の材料・製品を一元管理	827	—
合計		2,787	2,164

【労働生産性につながる点・効果】

■ 製造数量・売上金額の大幅アップ

ドックフード 製造2,821トン 売上2,959百万円 → 製造6,110トン 売上7,300百万円
キャットフード 製造 15トン 売上 26百万円 → 製造2,030トン 売上3,700百万円
合計 製造2,836トン 売上2,985百万円 → 製造8,140トン 売上11,000百万円

■ 自動化による効率化・属人化の解消、高品質な製品製造・高度な品質管理、ニーズに応じた機動的製品開発・多種多様な製造に対応可能

工場と物流センター機能の併設で**効率化**
(冷蔵保管完備で**高品質保持と廃棄0**)



目標値

項目	2027年度（28年3月期） (基準年度)	2030年度（31年3月期） (基準年度+3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	2036万円	3672万円 (年平均上昇率+21.7%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	410万円	516万円 (年平均上昇率+8%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率+5%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	100人	125人